



「利他の心」を軸に据え、 100%全力を尽くすべし

株式会社ベスト 代表取締役 中澤尚文氏

昭和58(1983)年より、アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)代理店として営業を続ける株式会社ベスト。アフラック長野県ナンバー1契約件数を誇る同社を率いているのが、創業者であり、現在も代表取締役として活躍し続けている中澤尚文さんだ。そんな中澤さんの信念や経営のコツを明かしていただいた。

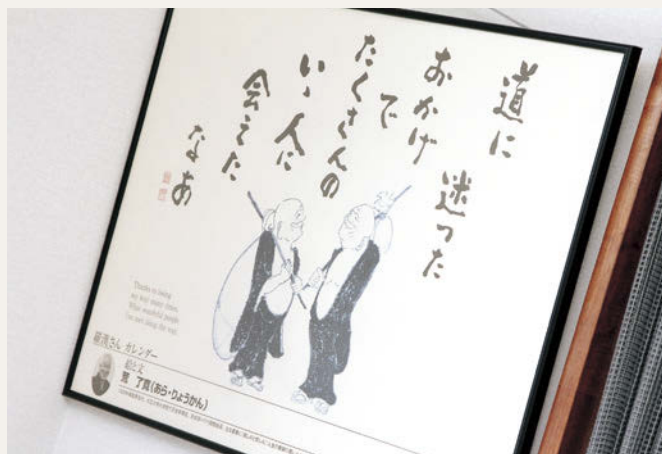
■38歳で飛び込んだ保険業界と経営の世界

起業前の私は、スキーのメーカーで営業として働く普通のサラリーマンでした。その会社の社長は大変厳しい教育をなさる方で、私もやはり、若い頃から物事の捉え方や先を見る力など幅広く鍛えてもらいました。だからこそ、当時発展途上だった保険業界の可能性に気づき、ゼロから会社経営に挑む勇気が持てたのかもしれない。



■死に物狂いで働き、学び続けた20年間

創業から30余年、大きな危機や苦難を経験したという意識はないものの、決して何の苦勞もせずに歩んできたわけでもありません。起業後の約20年間は死に物狂いに働き、不眠不休に近い状態で仕事に没頭した時期もありました。経営についての知識もなかったため、実践から教訓を得ることを地道に積み重ねて来ました。そんな私にとっての幸運は、仕事を通じて他企業の社長さんや偉大な先輩方と出会うチャンスを得たことでした。法人会などで縁にも随分支えていただいています。こうしてたくさんの方に分けていただいた貴重な知恵やお力添えは生涯を通じての財産であり、だからこそ、お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れたことはありません。



「私は短気だし自身が若い頃厳しく鍛えられたからか、つい社員や2人の息子たち(専務・常務)に厳しくしてしまっただけ…(苦笑)」と、自ら語ってくれた中澤代表。いずれ訪れる世代交代を見据え、厳しさの中にも愛情を感じてもらえるような人材教育にも着手する考えだ。

■偶然出会ったある人物の言葉に共感&感動!

約20年前、今もなお影響を受け続けている人物との出会いがありました。それは、京セラや第二電電(現KDDI)の創業者である稲盛和夫さんです。知人に誘われ気軽な気持ちで参加した【盛和塾】で初めて稲盛さんの考えに触れ、非常に共感し感動を覚えたのです。稲盛さんもかつてはゼロから会社を始め、経営者が必ず通るであろう道を行って来た人です。ゆえに稲盛さんの言葉には重みと説得力がありました。特に「動機善なりや、私心なかりしか」は、迷いが生じた時に必ず自問する言葉であり、ここぞという時に立ち返る原点となりました。さらに、この言葉を知って初めて心から理解することのできた「利他の心」もまた、常に心に留めている言葉のひとつです。



■何事にも動じず何時も揺るがぬ“軸”を持つ

私たちは経営者である限りビジネスとしての成果、つまり利益をあげ続けなければなりません。でも、目先の利益や私欲に支配されてしまうと、目的や理想を見失います。すべてはバランスの問題ですが、最適な割合というのは無情にも変化し続けます。だからこそ、信念を表す言葉など、“軸”を持つことが大切だと感じています。

中澤尚文氏(なかざわ・なおふみ)
株式会社ベスト 代表取締役

須坂市出身、長野市西尾張部在住。脱サラして38歳で起業し、奥様と二人三脚で会社をゼロから創りあげた。休日の溪流釣りやゴルフが何よりの楽しみ。

